

資料 10

実需者団体からの提出資料

平成20年7月

味噌業界の現状について

全国味噌工業協同組合連合会

1 味噌出荷量(全国味噌工連集計)

平成19年年間累計	460千トン	前年比	微増(+0.4%)
平成20年1~4月	148千トン	前年同期比	微増(+0.7%)

2 味噌の家計調査(総務省発表)

19年累計	支出金額 2,611円(▼2.3%)	購入数量 7.258g(+15%)	平均価格 359円(▼3.7%)
20年1~4月	" 836円(+6.1%)	" 2.359g(+3.3%)	" 363円(+2.2%)

3 家庭用味噌価格改定

19年10月~11月に17年ぶりに改定発表 20年2月~5月 店頭価格10%程度上昇(メーカー、小売店により改定格差あり)
また、業務用は進行中、大手量販店PBは不透明

4 製造コスト

この価格改定中に 原料大豆価格が5割、原料米穀(MA米)4割上昇。価格改定の効果半減
原油高騰により 燃料費、運送費、包装材料費は上昇続行中

5 原料大豆使用量(全国味噌工連集計)

19年累計	136千トン	国産8千トン(6%)	中国47千トン(34%)	アメリカ・カナダ81千トン(60%)
20年1~3月	33千トン	国産3千トン(9%)	中国10千トン(30%)	アメリカ・カナダ20千トン(61%)

原料大豆の確保について、先行きの不安拡大

6 輸出関係

19年累計	数量 9,252トン(前年比+6%)	金額 1,771百万円 (前年比+3.3%)
20年1~4月	" 3,515トン(前年同期比+17%)	" 691百万円 (前年同期比+19%)

平成20年7月1日(火)

納豆業界の国産大豆に対する要望

納豆は日本の伝統食品であり昔から庶民の味として親しまれていた食品です。しかし残念ながら原料大豆は大部分を輸入に頼っております。本来国産大豆100パーセントであれば消費者の皆様も安心していただけると思いますが、

納豆用の国産大豆は昨年夏以降値上がりしており現在では中小のメーカーでは手が出ないような価格となっております。またお金を出しても手当てできない状況に成っております。大きな要因は大手流通の国産大豆を使ったPB商品の開発、中国有機大豆の国産へのシフトなどあり、従来国産大豆は数量も少なく価格も輸入大豆と比べ高いこともあります。中小のメーカーが差別化商品として使用しておりました、大手流通、大手納豆メーカーが大量に国産大豆を買い付けたことにより今迄のバランスが崩れ中小のメーカーが高いお金をだして手当てせざるを得ない、また高いお金を出しても手当て出来ない状況と成っております。納豆は伝統食品ですので大手だけで作ればよいというものではなく色々なメーカーが色々の味で提供できるのが本来の姿と思われます。納豆大豆は小粒で単収が上がらないなどあります。我々業界も小粒だけでなく中粒大豆を使った商品アイテムを増やすようにしたいと思っております。中小の納豆メーカーが廃業に追い込まれないよう作付けを増やし量産していただけるよう宜しくお願ひいたします。

全国納豆協同組合連合会
事務長 松永 進